

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 4 年度病虫害発生予察技術情報第 16 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 16 号（ナシ赤星病）を発表したので送付します。

技術情報第 16 号

1 対象作物名：ナシ

2 病虫害名：赤星病

3 発生地域：県下全域

4 ナシへの感染最盛期：前年より早い（4 月 1 半旬頃）

5 根拠

- （1）ビヤクシンからのナシ赤星病菌小生子飛散ピークは、冬孢子堆の膨潤率が 80% 以上で、成熟度が 60 程度の時期である。県下 3 地点のナシ園周辺のビヤクシンにおける、ナシ赤星病菌冬孢子堆調査の結果、3 月 5 半旬時点での膨潤率は 42～65%（前年 0～20%）、成熟度は 18～35（前年 0～7）と、前年より早く、前年は飛散ピークが 4 月 3～4 半旬であった（表）。
- （2）4 月 1 日起算の「冬孢子堆発芽最多期予想の回帰式（福岡県立園芸試験場、昭和 45 年）」によると、ビヤクシンからの小生子の飛散ピークは 3 月 26 日（前年予想日：3 月 30 日）以降の降雨後と予想される（表略）。
- （3）福岡管区气象台 3 月 23 日発表の 1 か月予報では、降水量は平年並、気温は高く、特に前半の気温が高いと予想されている。

6 防除上注意すべき事項

- （1）ナシ園周辺のビヤクシン上の冬孢子堆の状況把握に努め、週間天気予報で降雨日を把握しながら、適期防除に努める。
- （2）薬剤防除に DMI 剤及び SDHI 剤を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布し、同一系統剤の使用回数は春季防除で年 1 回、年間でも 2 回以内にとどめる。これらの薬剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる。
- （3）防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し、周辺圃場への薬剤飛散防止対策を講ずる。

表 バックシンにおけるナシ赤星病冬孢子堆の成熟状況（水浸法）

調査地点	調査時期 月-半旬	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
		膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度
朝倉市	3-5	78	27	46	23	0	0	57	18
	4-2	69	27	100	72	68	19		
	4-5	100	80	100	75	100	89		
八女市	3-5	74	30	78	39	20	7	65	35
	4-2	97	50	100	69	88	39		
	4-5	100	79	100	80	100	73		
筑紫野市	3-5	57	24	80	49	5	1	44	18
	4-2	93	53	100	92	64	27		
	4-5	100	87	100	90	100	92		
平均	3-5	70	27	68	37	9	3	55	24
	4-2	86	43	100	78	73	29		
	4-5	100	82	100	82	100	85		

注1) バックシン上の冬孢子堆を水に30分浸漬し、膨潤程度を、A：冬孢子堆が外観的に完全に膨潤、B：一部が未膨潤、C：約50%未膨潤、D：一部膨潤、E：全く膨潤していないの5段階で評価後、膨潤率と成熟度を下記の式により算出

注2) 膨潤率 = (A + B + C + D) / 孢子堆数 × 100

注3) 成熟度 = [(4A + 3B + 2C + 1D) / (4 × 孢子堆数)] × 100

<参考> 満開日予測は「幸水」で4月5日頃と前年より1日早く及び平年より4日早い。
(令和5年3月16日福岡県農林業総合試験場果樹部調べ)。



<冬孢子堆膨潤程度>

- A: 冬孢子堆が外観的に完全に膨潤する。
- B: 一部未膨潤冬孢子堆を残す。
- C: 約50%未膨潤冬孢子堆を残す。
- D: 一部膨らむ。
- E: すべて無膨潤である。

図 バックシン上における赤星病冬孢子堆

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

- 福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右 QR コード①



最新の病害虫発生状況

- Twitter（ツイッター）で定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

Twitterの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右 QR コード②

